

人権コラム 心、豊かに

◆ 優しさの種を飛ばそう

アサガオの種、観察してから土にまき、毎日水やり。ふた葉が出て、本葉が出て、つるが伸び、つぼみがふくらみ、ある朝ついに美しい花が咲く。

多くの人が小学校の授業で経験し、アサガオの種の成長に不思議を覚え、植物の生命力に驚き、花が咲いた時の達成感や感動を語り合ったことでしょう。

このような、花や植物を育てる体験を子どもたちの心の成長などに活かす取組の一つに、法務省が昭和 57 年度から始めた「人権の花」運動があります。協力して花を育てる体験を通し、生命の尊さや優しさ、思いやりの心、人への感謝を学ぶことを目的に、全国の小学校などで取り組まれています。法務局日田支局管内では、日田市、玖珠町、九重町内の小学校を 1 年ごとに 1 校ずつ指定校としているため、市内の小学校が指定校になるのは 3 年に 1 回です。

今年度指定校の前津江小学校では、5 月から子どもたちが協力して花のお世話を続けています。そして、前津江小を訪れる他校の児童や生徒とは、子どもたちが水やりなどの活動と一緒にしながら「人権の花」運動のことを伝え、人権の心の輪を広げることにもつなげています。今月には、遠く離れた人にも人権の心の輪が広がるように、子どもたちが育てた花の種と人権への思いを込めた手紙をエコ風船に付けて飛ばす予定です。

平成 26 年度に「人権の花」運動で風船を飛ばした津江小学校の児童が感想文の中に、『人権の花運動は、私たちにやさしさや、人と人のつながりをあたえてくれます。遠くはなれた人からの感謝の手紙に「ありがとう」という文書が何回も書かれていました。自然と心があたたまり、とても、やさしい気持ちになったことを今でも覚えています。』と記しています。花の種を介して、顔も知らない遠く離れた人と優しさを共有した経験は、人権を大切に思う気持ちと共にお互いの心に強く残っているはずです。

前津江小から飛ばす種も新しい土地で芽吹き花を咲かせ、そして子どもたちの人権を大切に思う気持ちや優しさの種が人々の心まで届くことを願っています。

「広報ひた」 平成 29 年 11 月 1 日号掲載